



みなみっ子

31号

学校教育目標

○かしこく

○やさしく

○たくましく

令和7年12月4日(木)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

自ら楽しみを創り出せる子

子どもたちの日々の様子や、アンケートなどを見ていて気になることがあります。それは、学習の主体になっていない子がいることです。自ら挑戦し、試行錯誤をしながら取り組むことをしないで、誰かが教えてくれるのを待っているような子がいます。勉強が楽しくない、めんどくさいという子が一部います。

子どもは生まれて間もない頃、ハイハイを始める頃、ほとんどの子は好奇心旺盛です。見えるものに手を伸ばして触ってみたり、時には口に入れたりと様々な試行錯誤を繰り返します。

言葉を発する時も、周りの人の反応を伺い楽しみながら会話を始めます。小学校の1年生の入学当初も同じように好奇心旺盛で、学習することを楽しむ姿が見られます。



しかし、学年が上がるとそのワクワクした姿が減っていくように感じます。

その原因は、教師や大人の側の課題と子ども自身の課題があると思います。



家庭でのスマホ(YouTubeやゲーム)などをたくさんやっている子の多くは、与えられる楽しさに麻痺していると言っていでしょう。YouTubeやゲームは大人でも時間制限をすることは難しくありませんか？まして子どもたちに無制限にさせることは危険です。

学校では、子どもたちがワクワクして授業に取り組めるよう授業改善をしていき、子どもたちも自分たちから楽しめる姿勢を身につけさせたいと思います。

ご家庭でも、受け身な状況を作りやすいYouTubeやゲームの使用時間や方法をしっかり約束して下さい。また、お子さんの発達の段階に応じた家族の役割を与え、身の回りのことをしてもらい側だけでなく、家族や周りの人を支える側の経験をさせることも大切だと思います。

楽しいことは与えられるものが多いでしょう。様々なメディアなどから楽しい情報は沢山出されています。こんな中でも自分で、自分たちで楽しいことを創りだせるようにしていきたいですね。

没頭する、夢中になる楽しさ

5年生が家庭科の授業でトートバッグを作っています。その様子を見てみると、一針一針丁寧に縫っている姿があります。また、図画工作で木版画に取り組んでいる学年でも、細かい部分でも集中して彫る姿を見かけます。

学校で学ぶ教科にはこの様に没頭する、夢中になれるものが多くあります。取り組む前は、余り興味を示さないようなことでも、やり始めると夢中になり没頭して取り組むことが多々あります。



細かい作業が苦手と勝手に決めつけないで、まずは取り組んでみることで、自分自身の好きなことが広がり、可能性も広がっていきます。

心理的安全性について

近年、会社や組織経営などで見聞きする「心理的安全性」とは「チームや組織内で自分の意見や感情を自由に表現でき、拒絶や批判を恐れずに行動できる状態」を指します。この概念は、ハーバード大学のエドモンドソン教授が「チームの心理的安全性」に関する研究を通じて明らかにしました。

学校においても児童が自由に意見を言い、質問できる環境を作り出すだけでなく、教職員同士の連携や協力関係にも大きな影響を与えられています。心理的安全性が低いと、児童は発言や質問を控えるようになり、教職員間のコミュニケーションもぎこちなくなるため、学校全体としての学習・教育効果が低下する可能性があります。心理的安全性が確保された教室では、児童は質問や意見を自由に発言し、失敗を恐れずに挑戦することができます。

これは各家庭にも言えることです。各家庭において心理的安全性があると、勉強やスポーツやその他のことにも積極的にチャレンジするようになります。



子どもたちが、勉強やスポーツ、習い事などで、伸び悩み、出来なくて困難な状況の中に置かれても、自ら楽しみを見出し、新しい可能性を探る前向きな心の姿勢があれば成長していくと思います。私たち教職員や保護者が優しく励まし見守ることができるようにしていくことで、子どもたちは更に成長していきます。